

## 6．企業活動

### 6-1:環境への取り組み

ホンダは、1960年代から積極的に環境課題の解決に取り組んできました。1970年代には一酸化炭素・炭化水素・NOx<sup>\*1</sup>の排出量を減らした低公害の「CVCC<sup>\*2</sup>エンジン」を開発し、当時世界で最も厳しい自動車の排出ガス規制といわれた米国マスキー法（1970年改正の米国大気浄化法）に世界で初めて適合しました。1992年には、すべての環境取り組みの指針となる「Honda環境宣言」を制定しました。ここでは、資材調達から設計・開発・生産・輸送・販売・使用・廃棄段階に至る製品ライフサイクルの各段階で環境負荷を低減するという基本姿勢を整理・明文化しています。また、こうした環境取り組みをさらに進め、「存在を期待される企業」であり続けるために、2011年、「Honda 環境・安全ビジョン」を定めました。このビジョンに掲げた「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現に向けて、グローバルに展開するホンダの各事業所では、あらゆる環境負荷の低減に取り組んでいます。その取り組みは、気候変動の原因とされているGHG<sup>\*3</sup>排出量やエネルギー使用量の低減をはじめ、水資源や鉱物資源など資源の効率利用、廃棄物の適切な処理と削減など、生物多様性を含む地球環境の保全に向けて取り組んでいます。ホンダは、この環境宣言を自社やグループ企業だけではなく、サプライヤーや販売会社などホンダに関わるすべての皆様と共有してともに活動していくことで、このビジョンを実現していきます。

※1 NOx: Nitrogen Oxides(窒素酸化物)の略

※2 CVCC: Compound Vortex Controlled Combustion(複合渦流調整燃焼方式)の略

※3 GHG: Greenhouse Gas(温室効果ガス)の略

### Triple Action to ZERO

ホンダは、この地球上で人々が持続的に生活していくため、「環境負荷ゼロ」の実現をめざし、環境取り組みにおけるコンセプト (Triple ZERO) を設定しておりますが、2021年には、具体的な目標年や行動を定めた「Triple Action to ZERO」を掲げました。「カーボンニュートラル」「クリーンエネルギー」「リソースサーキュレーション」、この3つを1つのコンセプトにまとめた「Triple Action to ZERO」を中心にして、取り組みます。このコンセプトは、3つの連鎖を考慮しながら、施策の検討や実行を進めており、国際的な枠組みにおける取り組みの加速やステークホルダーの関心も高まっている“自然に根ざした解決策<sup>\*\*</sup>”にもつながると認識しています。

※ 自然生態系を保全・再生しながら社会課題への対応をすすめる取り組み(Nature-based Solutions)

### 2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ

「気候変動問題」への対応として、企業活動、および、製品ライフサイクル観点から排出されるCO<sub>2</sub>に対し、産業革命以前と比較した地球の平均気温上昇を1.5℃に抑える目標の達成を目指します。

### 2050年カーボンフリーエネルギー活用率100%

「エネルギー問題」への対応として、これまでのエネルギーのリスクを減らす取り組みを超えて、企業活動、および、製品使用において使用されるエネルギーをすべてクリーンなエネルギーにすることを目指します。

### 2050年サステナブルマテリアル率100%

「資源の効率利用」への対応として、これまでの資源と廃棄におけるリスクを減らす取り組みを超えて、環境負荷のない持続可能な資源(サステナブルマテリアル)を使用した製品開発や仕組みづくりに挑戦します。企業活動領域においては、2050年ホンダ工場の工業用取水と工業系廃棄物「ゼロ」を目指します。

### 6-2:安全への取り組み

ホンダは、共存安全思想のもと、クルマやバイクに乗っている人だけではなく、道を使う誰もが安全でいられる「事故に遭わない社会」の実現を目指しています。そして、2021年4月、2050年に全世界で、ホンダの二輪車・四輪車が関与する交通事故死者ゼロを目指す<sup>\*</sup>ことを宣言し、安全の取り組みを加速させています。ホンダの安全の取り組みは、1960年代に二輪車・四輪車メーカーで初の試みとなる安全運転普及活動から始まりました。安全の取り組みは、現在ではその対象を運転者から歩行者、子どもから高齢者まで、交通社会に関わるすべての人へと広げ、日本国内のみならず、世界中の国や地域で積極的に展開しています。また技術においては、「規制を基準とせず」「無いものは自分でつくる」という考え方から世界に先駆けていくつもの新技術を世に送り出してきました。また、こうしたホンダ個社での取り組みに加え、とくに道路環境を改善するために、国や地域、各企業とも積極的な連携を図っています。オンラインサービスなどの技術進化により、今では移動せずとも

成り立つ生活が可能になりつつあります。しかし、人が好奇心に導かれて行動範囲を広げ、リアルな世界を感性豊かに楽しむことは未来においても変わらないと考えます。安全は自由な移動を広げるための重要な取り組みです。今後もホンダは人を守るだけではなく、人の好奇心を後押しし、移動の喜びを広げることにつながる安全を追求していきます。

※ ホンダの二輪車、四輪車が関与する交通事故:ホンダの二輪車・四輪車乗車中、および歩行者・自転車(故意による悪質なルール違反、責任能力のない状態を除く交通参加者)が関与する交通事故

### 活動の方向性

ホンダは、「人の能力(啓発活動)」「モビリティの性能(技術開発)」「交通エコシステム(協働のシステム・サービス開発)」の3つの要素をもって、交通安全に取り組んでいます。

### 人の能力

交通社会に関わるすべての人を対象として、運転技術、認知、判断、周囲に対する思いやりといった、心理・精神面まで含む、人の能力の向上をサポートする取り組みが必要であると考えており、意識や経験値・身体能力など個々人に沿った啓発活動へと進化させていきます。

### モビリティの性能

人体を保護するもの、衝突を回避するもの、人の意思を捉え車や他者に伝えるもの等、人の能力を正しく補完あるいは拡張するための複合的な性能が必要であると考えており、人の体や意識をさらに深く理解し、より人に寄り添った技術開発へと進化させていきます。

### 交通エコシステム

渋滞や悪天候などにより状況が刻々と変化するなかで、事故を未然に防ぐ、あるいは事故の被害を軽減するためには、交通環境を構成する歩行者や二輪車、四輪車などの多様な存在や、道路、通信などインフラとの相互関係までを踏まえた全体像(交通エコシステム)を動的に捉え、それぞれが有機的に結びつくことが必要であると考えており、国や地域への協力、各企業との連携など、オープンな姿勢で積極的に取り組み、交通社会の健全な機能に貢献していきます。

### 6-3:社会貢献への取り組み

ホンダは創業以来、商品や技術を通じて社会やお客様にさまざまな喜びを提供してきました。また、「企業は地域に根付き、地域と融合した存在でなければならない」という考えのもと、まだ創業期だった1960年代に、地域とのつながりを大切にした社会貢献活動を開始しました。そして現在も、「世界中の人々と喜びを分かち合い、存在を期待される企業」を目指し、世界7地域でさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。また、その地域の実情に応じた取り組みのサポートも進めています。これからもホンダは、お客様や地域の人々とコミュニケーションを図りながら、社会貢献活動を展開していきます。

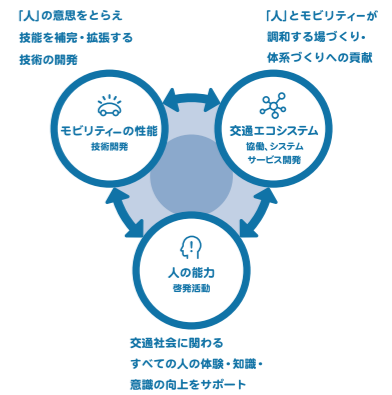
### 社会貢献活動の基本的な考え方

ホンダは1998年に「Honda 社会活動理念・活動指針」を制定し、2006年には世界中のホンダが「夢のある明日の社会づくり」に向けて、より活動の統一感を図るためのグローバル方針を制定しました。2018年には、時代の環境変化に応じてグローバル方針を改定し、2030年ビジョン「すべての人に『生活の可能性が広がる喜び』を提供」の実現に向けた展開をしています。「人間尊重」と「三つの喜び」の基本理念のもと、世界中の人々の生活がより豊かになり、その喜びを分かち合えるよう、従業員一人ひとりの主体的な取り組みをグローバルで加速させていきたいと考えます。

### ■グローバル安全スローガン

## Safety for Everyone

クルマやバイクに乗っている人だけではなく、道を使う誰もが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい



### ホンダが目指す「環境負荷ゼロ」の循環型社会

